

動詞重疊型に関する通時的研究（七）

— 《脂硯齋重評石頭記》庚辰本を中心に —

大 島 吉 郎

A Diachronic Study of the V — V Form (VII)

Yoshiro Oshima

内 容 提 要

本文试图探讨《脂硯齋重評石頭記》庚辰本里所出现的动词重叠式，并且企图对汉语史研究提供一些基本材料。

《脂硯齋重評石頭記》至今有几种手抄本流传下来，统称脂本，是一部在汉语史研究上非常重要的语料。庚辰本是其中一个早期版本，所抄写的年代拟定为清代中期乾隆庚辰年（1760）。

庚辰本里重叠式数量多，形式也比较丰富。本文主要论点如下：

一、单音节动词＜V了一V＞相对＜V了V＞而言，例子用得更多了。

二、＜V了（一）V＞为何只能在表示“已然”的句子里用？

三、《脂硯齋重評石頭記》里为何没出现＜VOV＞形式？

【目 次】

0. はじめに	1. 12. V了一VO	参考文献
1. 单音節動詞	1. 13. VO一V	引用書目
1. 1. VV	1. 14. VO一V儿	
1. 2. VV儿	1. 15. VV看	
1. 3. V了V	1. 16. V一V试试	
1. 4. VVO	2. 二音節動詞	
1. 5. V了VO	2. 1. VV	
1. 6. VOV	2. 2. V了V	
1. 7. VOV儿	2. 3. VVO	
1. 8. V一V	2. 4. V一V	
1. 9. V一V儿	2. 5. V了一V	
1. 10. V了一V	3. おわりに	
1. 11. V一VO	注	

0. はじめに

小稿では《脂硯齋重評石頭記》と称される一群の抄本の一つである庚辰過録本（以下「庚辰本」と略称）を対象に、動詞重疊型に関する調査結果を報告しようとするものである。「庚辰」は清代乾隆年間庚辰の年（1760年）と目されている。

周知のとおり、「庚辰本」は第64、67回を欠き、また、章回も80回までしか無い。このため、言語資料のテキストとしては十全であるとはいえないが、「甲戌過録本」、「己卯過録本」等と比較すれば、《脂硯齋重評石頭記》早期抄本の中では、より整った内容を具えており、重要なテキストとして位置づけられていることから、《紅樓夢》全体の言語研究を行う上で、また語史研究の面からも、小稿は清代中期に関する基礎的データを提供し得るものとする。

テキストには香港中華書局影印《脂硯齋重評石頭記》を用い、句読は作家出版社刊鄭慶山校《脂本彙校石頭記》に依った。

1. 単音節動詞

最初に＜VV＞型と＜V－V＞型の分布について、賓語の現れる位置も含めて概観しておくことにする。

[表 1]

<u>V V</u>	309例	V－V	122例
V V 儿	3例	V－V 儿	8例
V 了 V	10例	<u>V 了－V</u>	118例
<u>V V O</u>	147例	V－V O	22例
V 了 V O	4例	V 了－V O	7例
V O V	0例	V O－V	11例
V O V 儿	1例	V O－V 儿	2例

賓語の現れる位置については以下のように整理することができる。

[表 2]

	後置型		抱合型
V V O	147例	V O V	0例
V V 儿 O	0例	V O V 儿	1例
V 了 V O	4例	V 了 O V	0例

V—VO	22例	VO—V	11例
V—V儿O	0例	VO—V儿	2例
V了—VO	7例	V了O—V	0例

<V(了)(一)V(儿)O>賓語後置型に対して<V(了)O(一)V(儿)>賓語抱合型が淘汰されつつある状況がうかび上がる。

形式によって用例数（使用頻度）にばらつきが見られ、ある特定の形式に用例が集中する傾向にはないことがうかがえる。動詞重疊型が「庚辰本」ひいては《脂硯齋重評石頭記》（以下《脂》と略称）の多彩な言語表現を支える一つの手段であるということができよう。

1. 1. V V

全309例、動詞の種類は48。

——擦、猜、查、尝、吹、等、改、管、逛、回、拣、见、讲、嚼、净、看、露、念、评、瞧、劝、让、认、使、试、说、送、算、躺、舔、贴、听、脱、顽、望、闻、问、渥、闲、想、笑、歇、养、找、照、走、做、坐

例えば、

众人越发笑起来，…，说：“…。倒得每人给一瓶子桂花油擦擦。”（第62回，第1464页）

平儿笑道：“咱们再往后找找去，只怕还找出两个人来，也未可知。”（46, 1069）

宝玉…，一面抱怨道：“有老爷和他坐着就罢了，回回定要见我。”（32, 738）

贾环看了一眼，果然比先的带些红色，闻闻也是喷香，…。（60, 1407）

岫烟见湘云直口说出来，少不得要到各房去让让。（62, 1453）

黛玉听了，…，因笑道：“…。你说说我听听。”（49, 1139）

状語として現れる副詞には“略”“细”“细细”“好生”などの例がある。例えば、

薛姨妈忙道：“跟你们的妈妈都还没来呢，且略等等不是。”（8, 188）

鸳鸯刚至堂屋中，…，忙上来悄声笑道：“…。你且这屋里略坐坐。”（72, 1750）

刘姥姥诧异道：“…。姑奶奶再喂我些，这一口细嚼嚼。”（41, 938）

众人都说：“…。你细想想，或问问他们去。”（76, 1871）

凤姐上来笑道：“老祖宗倒细细的看看，好不好？”（69, 1677）

尤氏说道：“…。我说他，‘你且不必拘礼，…，你竟好生养养罢。…。’ …。”（10, 220）

次は“把”字句の述部に用いられる例。用例全体に占める割合はきわめて少ない。例えば、

宝玉道：“…。求我把稿子给他们瞧瞧。…”（48, 1117）

贾母因说：“天热，把外头的衣服脱脱罢。”（31, 720）

胡君荣又诊了半日，说：“…。须得请奶奶将金面露露，…”（69, 1689）

否定詞“不”を伴う例も見られる。例えば、

鸳鸯便叫道：“…。你跟他一辈子，也不劝劝，还是这么着。”（24, 532）

那焦大汉又恃贾珍不在家，…，“…你也不想想，焦大太爷跷起一只脚，比你的头还高呢。…”（7, 169）

従来見られないタイプも「庚辰本」には見られる。例えば、

宝玉便洒了鞋，晃出了房门，只装着看花儿，这里瞧瞧，那里望望。（25, 558）

“这里”と“那里”、“瞧”と“望”が対句の形式で用いられ、「花でも見ているふりをして、こっちを見たり、あっちをながめたりして（きよろきよろして）いる」の意。この例は「甲戌本」にも見えることから、《脂》原本に当初より存在する例と考えられる。「～したり…したり」という表現は＜AABB＞タイプの重ね型式が発展したものと考えられるが、このような表現形式が根底にあって安定して用いられるようになったのではなかろうか。

＜VV＞型に見られる特徴としては次の点を挙げることができる。

一、会話文中に用いられる例が大部分を占める。288例：21例

対話する相手への配慮（気遣い）を表現するのが動詞重畳型の主要なはたらきであるとするれば、当然のことと考えられよう。

二、“看”に対して“瞧”の割合が高い（用例が“瞧”に集中している）。16例：88例

“瞧”が当時の口語語彙であることの証左と考えられる。この傾向は＜VVO＞型においても一致する。

＜VV＞型に現れる動詞はおおむね以下のように分類することができる。いずれも日常的な生活の場面を中心とする「常用語」として用いられており、高度に抽象的な意味を持つ語は含まれない。

(1) 具体的な動作

1) 身体：躺、脱、走、坐

2) 手：擦、拣、贴、

3) 口：吹、讲、嚼、念、说、舔、

4) 目：见、看、瞧、望、

5) 耳：听、

6) 鼻：闻、

(2) 行為：查、等、改、管、逛、回、净、露、评、劝、让、使、试、送、算、顽、渥、闲、笑、歇、养、找、照、做、

(3) 心理活動：猜、认、想、

1. 2. VV儿

全3例、動詞の種類は3。

——逛、歇、醒

いずれも会話文中における例である。例えば、

柳家的笑道：“…。你不嫌脏，进来逛逛儿不是。”（60, 1416）

黛玉只合着眼，说道：“我不困，只略歇歇儿。你且别处去闹会子再来。”（19, 427）

众人笑推他，说道：“快醒醒儿，吃饭去。…”（62, 1468）

“儿”を接辞するケースは、これまでの調査によれば《西遊記》、《金瓶梅詞話》、《醒世姻縁傳》（以下《姻》と略称）に見られ、一方で《儒林外史》には現れてきておらず、資料の性質を判断する上での標識の一つとすることができるのではなかろうか（注1）。

現代北方口語を基礎方言とする普通話では動詞重量型に“儿”接辞が失われてしまっている点は、北方口語における広範な“儿”接辞の発達と相反する結果となっており、どの時点で、なぜ消失したのか明らかにすべき問題であろう（注2）。

1. 3. V了V

全10例、動詞の種類は8。

——撼、摸、看、瞧、试、谈、想、掖

“了”を伴うと地の文での用例が中心になり（10例中7例）、＜V了一V＞に見られる傾向と一致する。例えば、

想贾母想了想，果然不差，便说道：“是砚台。”（22, 505）

忽见宝玉进去了，宝钗便站住，低头想了想：…。（27, 609）

尤氏看了看，只见也有梅花似的，也有海棠似的，…。（53, 1229）

凤姐儿笑道：“…，我也太行毒了，也该抽头退步，回头看了看，再要穷追苦克，…”（55, 1304）

林黛玉笑道：“…。只因听见天上一声叫，出来瞧了瞧，原来是个呆雁。”（28, 656）

一时，李嬷嬷来了，…；用手向他脉门摸了摸，…。（57, 1340）

贾珍笑道：“…，我试了试，果然好，才敢做了孝敬。…”（75, 1855）

些微谈了谈，便催宝玉去歇息调养。（58, 1376）

晴雯听说，便上来掖了掖，伸手进去渥一渥时，…。（51, 1193）

贾瑞急的也不敢则声，只得悄悄出来，将门撼了撼，关得铁桶一般。（12, 257）

用例は第55回の1例（“回头看了看”）を除いて、他は「已然」の文脈に用いられている。第55回の例は、

…、これでわたしも随分とあこぎなことをやってのけたのだから、身を抜きあと振り向いてみるにはいまがよい潮時だわ。これ以上手きびしくしめ上げようものなら、…。（注3）

という意味であり、“回头看了看”は「未然」を表すことになる。しかし、他のテキスト、例えば、

《脂》己卯本：“回头看看了”（注4）

《石頭記》レニングラード本：“回头看了”（注5）

《紅樓夢》程甲本：“回头看看”（注6）

などでは“了”の位置、重畳型か否か、あるいは“了”の削除など、幾通りかのケースが見られるが、そのような方法により「未然」の文脈を保とうとしている。＜V了(一)V＞が「未然」の意で用いられることがあるのか争点となる例であろう(注7)。

《脂硯齋重評石頭記彙校》によれば“回头看了看”とするテキストは「庚辰本」のみであり、「庚辰本」書写時点における誤写の可能性が高い。

次に、地の文での頻度が高い点から見て、＜V了V＞型における意味に語用論的解釈はなじまないようにうかがえる。主に「どうしたか」という説明的な内容を表しているところから、意味の中心は「ちょっと～する」、あるいは「試みに～する」にある、と考えるのが妥当であろう。この点から、動詞重畳型の意味を考える際に、タイプのちがいにより、異なった二つの意味の層を想定し得るものと考えられる。すなわち、

(一) 基本義：統語論的解釈(内容説明的)

(二) 派生義：語用論的解釈(直截的な表現を避け、相手への気遣い、配慮を示す)

＜V了V＞型に反復義を認めるか否かは意見の分かれるところであるが、動作、行為に関して明確な反復を表す型式は＜V了又V＞型である。「庚辰本」にも用例は見えるが、＜V了V＞型と並行する状態にはない。用例はすべて地の文。例えば、

爆了又爆(49, 1129)

吃了又吃(47, 1093)

结了又结(49, 1129)

说了又说(10, 225)

说了又说, 哭了又哭(68, 1667)

谢了又谢(60, 1419)

熏了又熏(80, 1999)

忙应了又应(46, 1073)

＜V了再V＞型の例も1例ながら見られる、例えば、

袭人…, 向他姊妹们笑道: “…, 恨不能一见, 今儿可尽力瞧了再瞧。…” (19, 412)

1. 4. VVO

全147例、動詞の種類は50。

——避、闭、尝、辞、点、抖、躲、观、逛、唬、换、会、积、剪、见、解、借、开、看、免、抹、念、评、瞧、请、求、劝、认、散、扫、煞、上、伸、审、试、说、算、搪、听、通、闻、问、洗、想、歇、修、照、争、整、皱

＜VV＞型と対比した＜VVO＞型の特徴は以下のようにまとめられよう。

一、会話文と地の文での使用比。122例：25例

二、“看”と“瞧”の使用比。11例：42例

賓語のタイプは次のように分類できる。

(1) 人

1) 固有名詞：

贾环、宝玉、王夫人、蓉哥儿媳妇、藕官、王太医、缕儿、宝玉和他、
你宝姐姐、你琏二婶子、我们珍大奶奶、
那凤奶奶、

2) 人称代名詞：我、我们、你、他、他们、

3) その他

太太、奶奶、三妹妹、寡嫂并侄儿、
你嫂子、他这妹子、你们的嫂子们、我们那一个、
这些为官做宰相的人们、这小蹄子、那会画的相公、
别的小厮、跟的人、

(2) 物

1) 具体的

雨气、雪气、气色、衣服、灯花、酒、日影儿、白花花的一堆银子、骨牌、画儿、灰尘、
账、火、香气、
你的那红麝串子、他的画儿、他那光景、
凤姐的模样儿、
这手帕子、这裙子、这玉上穿的穗子、这个茶、那书、那模样儿

2) 抽象的

天子脚下世面、寿、心、性儿、理、这个理、分儿、风头、话儿、原故、来世、气、
你的灾病、你这几年的情思、他编排你的话、
这话、

(3) 事

事、羞、闷、闲闷、姑太太的好、安、这不是、光、
他干的勾当、

(4) 身体部位

头、脸、眼、眉、手、脚、嗓子、舌头、肉皮儿、
宝钗形容、
我的眼睛、他的嘴、

(5) 場所

山水、奶奶家里、那屏上、裤子上、
我那案上、

(6) 補文

王夫人只有一个亲生的儿子，素爱如珍、

你做什么、他做什么、打坏了那里、今儿该输多少、说些什么、
咱们谁强谁弱、他这会子疼的怎么样、怎么长大了、
我们的茄子弄的可口不可口、妈身上好不好、你那会子还这么刁不刁了、
我逛了没有、你们好了没有、
我们当着面儿叫他、王夫人合着眼、
是什么病、是怎么样了、你的牙齿舌头是什么作的、柳大爷是谁、

用例数、動詞の種類ともに多いことから賓語のバリエーションも多様になっていると考えられる。例えば、

看看宝玉，果然打重了。(33, 763)

偏奶母李嬷嬷拄拐进来请安，瞧瞧宝玉。(19, 413)

金氏此来，原要向秦氏说说秦钟欺负了他的侄儿的事，…。(10, 223)

刘姥姥便说：“原是特来瞧瞧你嫂子，二则也请请姑太太的安。…”。(6, 135)

赖嬷嬷听了，笑道：“…，摆几席酒，请老爷们、爷们去争争光。…”。(45, 1036)

凤姐笑道：“…，恐积了冷在心里，讨老祖宗笑一笑，开开心。…”。(38, 868)

绮霁道：“你听听他的嘴！你们别说了，让他逛去罢。”(27, 614)

王夫人道：“也没甚话，白问问他这会子疼的怎么样？”(34, 772)

俸茶毕，邢夫人因说道：“你这么大了，你那奶子行此事，你也不说说他。…”。(73, 1782)

李嬷嬷听了，…，便说道：“…。难道他不想想怎么长大了？…”。(19, 414)

1. 5. V了VO

全4例、動詞の種類は4。

——掸、点、问、洗

例えば、

…，刘姥姥便不敢过去，且掸了掸衣服，又教了板儿几句话，然后走到角门前。(6, 133)

宝玉不识姓名，只微笑点了点头儿。(52, 1219)

探春道：“我才都问了问他们，虽是他们自谦，看其光景，没有不会的。…”。(49, 1131)

这红玉也不梳洗，向镜中胡乱挽了一挽头发，洗了洗手，…。(25, 557)

用例はいずれも「已然」の文脈に現れてきており、＜V了V＞の場合と同じく、表現の中心は「どうしたか」という状況説明に置かれている。

1. 6. VOV

現存する「庚辰本」に＜VOV＞型は現れないが、《紅樓夢》（以下《紅》と略称）程甲本第67回には次のような例が見える。次節で述べるように、問題を抱える例ではあるが「庚辰本」に1例＜VOV儿＞型があり、これが原抄本に基づくものであるとすれば、理論的には《脂》諸本に、あるいは《紅》に＜VOV＞型が存在しても整合性を失うことはない。例えば、

众人听了，…，因说道：“…。早知是他，我们大家也该劝他劝才是。…”（程甲本67, 1809）

(注8)

脂本系統とは言語の傾向を異にする程甲本、程乙本について調査を行い＜VOV＞型の位置づけを改めて行う必要がある。

《品》には1例＜VOV＞の例が見られる。例えば、

惠芳听了，…，心里想道：“…，这等可恶！待我赚他赚。”（《品》13, 189）

宮田1970、藤田2002に、《兒女英雄傳》第4回“问他问”が1例見えることが報告されているが、「例外的」と言える出現頻度である。宮田1970 (p.35) には、＜VOV＞型は《官場現形記》以降の作品では完全に姿を消すとの指摘があるが、消失の兆候は早くに出ていたと見ることができよう。このような点から考えて、「庚辰本」における＜VOV＞型の用例が限定的である状況は、消失の結末を予測させる状況証拠として考えることができるであろう。

1. 7. VOV儿

全1例。

——理

例えば、

宝玉便拉他的手，笑道：“好姐姐，你也理我理儿呢。”（25, 561）

しかし、この箇所「甲戌本」では“理我一理儿”とするところから、《脂》原抄本では“理我一理儿”であった可能性が高い（注9）。この推理が正しいとすれば、《脂》に＜VOV(儿)＞型は存在しないとの結論が得られる。

＜VOV儿＞型の例は、程乙本を底本とする人民文学出版社1979年版《紅樓夢》に、例えば、

凤姐笑道：“你请我请儿，保管就快了。”（14, 160）

とあるが、台湾廣文書局影印《程乙本新鐫全部繡像紅樓樓夢》では“请我一请”とし、表記に差異が見られる（注10）。「庚辰本」でも“请我一请”とし、《脂硯齋重評石頭記彙校》を見る限り他の版本との異同は無い。底本とのくい違いが何に起因するのか確認する必要があるだろう。

1. 8. V-V

全122例、動詞の種類は68。

——摆、比、篋、猜、查、尝、吵、称、冲、吹、捶、辞、等、低、点、动、抖、管、回、
混、祭、见、讲、净、开、冷、理、拢、摸、碰、瞧、请、求、认、润、散、扫、试、
梳、漱、说、搜、算、谈、躺、听、闻、问、瓮、渥、洗、闲、想、消、笑、歇、醒、
掖、熨、攢、炸、沾、站、找、照、治、走、坐、

用例数は必ずしも多いとはいえないが、他のタイプと比較すると、用例数に対する動詞のバリエーションが豊富であることが明らかとなる。特定の動詞に用例が集中しない点を指摘することができる。例えば、

[表 3]

	用例数	動詞の種類
V V	309	48
V V O	147	50
V - V	122	68
V 了 - V	118	30

動詞の内容はおおむね以下のように分類することができる。

(1) 具体的な動作

- 1) 身体：動、躺、站、走、坐、
- 2) 手：摆、篋、捶、开、拢、摸、扫、梳、洗、掖、
- 3) 口：吵、吹、讲、漱、说、谈、
- 4) 目：见、瞧、
- 5) 耳：听、
- 6) 鼻：闻、
- 7) 頭：低、点、

(2) 行為：比、查、尝、称、冲、辞、等、抖、管、回、混、祭、冷、理、碰、请、求、
润、散、试、搜、算、问、瓮、渥、闲、消、笑、醒、歇、熨、攢、炸、沾、
找、照、治、

(3) 心理活動：猜、认、想、

例えば、

宝玉在前，…，便止步道：“我要走一走，这怎么好？”(78, 1936)

探春笑道：“我不算俗，偶然起个念头，写了几个帖儿试一试，谁知一招皆到。”(37, 838)

贾蓉笑道：“…，明日请一个要紧的客，借了略摆一摆就送过来的。”(6, 143)

宝官便说道：“只略等一等，蔷二爷来了，叫他唱，是必唱的。”(36, 827)

正没主意，只听里面一阵笑语之声，细听一听，竟是宝玉、宝钗二人。(26, 603)

至五更天，就传管家男女，命仔细查一查，拷问内外上夜男女人等。(73, 1776)

茗烟见他为难，因问道：“…。我见二爷时常小荷包里有散香，何不找一找？”(43, 995)

秦氏笑道：“…。想在书房里，宝钗何不去瞧一瞧？”(7, 163)

宝玉便把头略低一低，命他戴上。(8, 188)

凤姐儿笑道：“…。才要把这米账和他们算一算，那边太太又打发人来叫，…”。(45, 1209)

那先生道：“…。如今看了脉息，看小弟说的是不是，再将这些日子的病势讲一讲，…”。

(10, 227)

次の例は結果補語“好”を伴っているかのようにも見えるが、相手の同意を得ようとする“好不好”の意と解釈すべきものであろう。「庚辰本」に結果補語を伴う＜V－V＞型は用いられていないと考えられるからである（注11）。例えば、

跟的丫头、媳妇们因问：“奶奶今日中晌尚未洗脸，这会子趁便可净一净好？”（75, 1834）

＜V－V＞型における“瞧”は6例使用されるのみで、頻度は必ずしも高くない。“看”の例は見られない。また、全用例中、会話文中での使用は93例を占めるが、地の文の用例が25見られ、＜VV＞型より割合を増している。

1. 9. V－V 儿

全8例、動詞の種類は6。

——病、大、动、煞、笑、坐

例えば、

麝月笑道：“你今儿别装小姐了，我劝你也动一动儿。”（51, 1190）

众人都说：“老太太的比凤姐儿的还好还多，赏一个，我们也笑一笑儿。”（54, 1275）

凤姐儿…，因向贾蓉说道：“你先同你宝叔过去罢，我还略坐一坐儿。”（11, 244）

坐一坐儿 （12, 256）（55, 1297）

麝月听了，忙过来说道：“…。等两日闲了，咱们痛回一回，大家把威风煞一煞儿才好。”（58, 1379）

以上は動作主の意思により動作をコントロールする場合の用例であるが、動作主の意思とは関係ない場合の状況描写に用いられる例も見られる。例えば、

凤姐儿…，因说道：“…。况且能多大年纪的人，略病一病儿，就这么想那么想的，…”（11, 244）

贾母道：“…，这孩子命里不该早娶，等再大一大儿再定罢。…”（29, 668）

この2例は、陳述の対象に対する話者の感想、意見を描写的に述べるケースであり、動作主の主体性、意思が動詞に反映されてはいない。“病”の意味が本来自動詞であるからであり、また“大”もこの文脈では自動詞としてはたらいっているからである。すなわち、

多大年纪的人：略病一病儿

这孩子：再大一大儿

1. 10. V了－V

全118例、動詞の種類は30。

——包、查、尝、湊、掂、逛、跪、画、搅、看、埋、摸、瞧、散、试、数、漱、搜、听、想、笑、歇、寻、摇、站、照、诊、走、坐、瀉

地の文での使用例が多く、会話文中ではわずかに16例のみである。動詞は“想”が46例と圧倒的に多数を占め、“瞧”が15例でこれに続く。現れる文脈は「已然」であると考えてよい。例

えば、

宝玉笑道：“…。我探头往前看了一看，却是他两个，所以我就绕到你身后。…”（46, 1069）

湘莲道：“…。我背着众人走去瞧了一瞧，果然又动了一点子。…”（47, 1090）

赖嬷嬷听了，笑道：“…。又想了一想，托主子洪福，想不到的这样荣耀，…”（45, 1035）

翠缕和紫鹃道：“断乎没有悄悄的睡去之理，只怕在那里走了一走。…”（76, 1872）

麝月听说，…，先用温水灌了一灌，向暖壶中倒了半碗茶，…。（51, 1192）

半晌，那丫头冷笑了一笑，…。（24, 547）

宝玉见繁华热闹到如此不堪的田地，只略坐了一坐，便走开，各处闲耍。（19, 404）

贾母听说，细看了一看，果然都散了，…。（76, 1871）

宝玉…，向黛玉脸上照了一照，觑着眼细瞧了一瞧，…。（45, 1045）

平儿只装看不见，因笑道：“…。我就怕有这个，留神搜了一搜，竟一点破绽也没有。…”
（21, 475）

第51回の例に現れる“灌”、発音は“shuàn”、「水などで洗って汚れをおとす」の意（注12）。

「庚辰本」には＜V了n V＞型もきわめて少数ながら見られる。例えば、

用脚尖点了两点（47, 1095）

凤姐把袖子挽了几挽，…。（36, 820）

刘姥姥在地下已是拜了数拜，问姑奶奶安。（6, 141）

“n”が“一”である場合、＜V了一V＞型との差異は、動詞の性質により判断がまぎらわしくなる。例えば、

黛玉忙命紫鹃包了一包，递与莺儿。（59, 1390）

芳官听了，便将些茉莉粉包了一包拿来。（60, 1406）

马道婆…，又向宝玉脸上用指头画了一画，又口内嘟嘟囔囔的持诵了一回，…。（25, 564）

“画了一画”の例、「甲戌本」では“画了几画”とし、“画”が量詞であることを示している。＜V了一V＞型と＜V了n V＞型との境界はグレーゾーンであるが、その決定要因は動詞の性質にあることをうかがわせる。

1. 11. V—VO

全22例、動詞の種類は19。

——拜、比、尝、等、动、踩、管、见、尽、看、评、揉、煞、收、受、算、问、想、照
賓語は以下のように分類される。

(1) 人

- 1) 固有名詞：你茗大爷、
- 2) 人称代名詞：你们、他、
- 3) 代名詞：自己、
- 4) その他：街坊邻舍、

(2) 物

1) 具体的：你儿子带来的惠泉酒、靴子、账、宝玉的月银、

2) 抽象的：世面、同窗之情、气儿、心、一家子的理、命、

(3) 身体部位：肠子、

(4) 場所：地下

(5) 補文：谁糊涂、这模子谁收着呢、是奴儿、

用例数、動詞の種類、賓語のバリエーション、いずれをとっても＜VVO＞型の生産性と大きな開きのあることが見てとれる。用例は会話文での使用が大部分を占める。例えば、

这里茗烟…，问道：“…。你好小子，出来动一动你茗大爷！”(9, 208)

凤姐听了，…，说：“…，把太太和我的嫁妆，细看看，比一比你们，那一样是配不上的？”(72, 1757)

贾母…，叫凤姐儿说道：“…，过了明日，你后日再去看看一看他去。…”。(11, 251)

凤姐儿道：“可是我要算一算命呢。…”。(47, 1083)

平儿斟上茶来，…，因又指宝玉道：“…。他自己也不管一管自己，…”。(45, 1035)

凤姐…，又冷笑道：“…。咱们也不想一想是奴儿，也配使两三个丫头！”(36, 820)

1. 12. V了—VO

全7例、動詞の種類は6。

——包、瞪、点、看、摸、挽、

賓語のタイプは次の三点。人称代名詞はこのタイプに現れない。

(1) 人：自己、

(2) 物：芍药花瓣、

(3) 身体部位：头、头发、眼、

用例はすべて地の文。“了”を伴うことにより、＜V—VO＞型よりも一層使用上の制限を受け、生産性に限界のあることがうかがえる。例えば、

用鲛帕包了一包芍药花瓣 (62, 1467)

瞪了一瞪眼 (28, 647)

点了一点头 (54, 1262)

看了一看自己 (62, 1468)

摸了一摸头 (42, 964)

挽了一挽头发 (25, 557) (52, 1225)

通時的に見れば＜V了—VO＞型は、清代以降にのみ見られる表現形式である可能性が高い(注13)。

1. 13. VO—V

全11例、動詞の種類は11。

——別、等、管、难、请、试、望、慰、问、羞、招

賓語はすべて人称代名詞で構成され、統語上の制約が満たされている。

賓語：我、你、他、他们

例えば、

別你一別 (13, 269)

等他一等 (61, 1434)

管你一管 (45, 1034)

难他一难 (55, 1298)

请我一请 (14, 294)

试他一试 (15, 307)

望他一望 (8, 176)

慰他一慰 (28, 639)

问他一问 (54, 1276)

羞他们一羞 (76, 1874)

招他一招 (65, 1581)

1. 14. VO—V 儿

全 2 例、動詞の種類は 2。

——理、使

<VO—V>型と同じく、賓語はいずれも人称代名詞。例えば、

不理我一理儿 (20, 452)

使他们一使儿 (59, 1391)

1. 15. VV 看

全 1 例。

——试

「嘗試」の意を表す形式。用例が極端に少ないのは、<V(一)V>型に「嘗試」の意が含まれ、十分に機能しているからと考えられる。例えば、

袭人也笑道：“…，我叫他们拿了一个扇套子试试看好不好。” (32, 736)

1. 16. V—V 试试

全 1 例。

——照

本来ならば<VV 看>とすべきところを、「嘗試」の意に過剰に反応して“试试”を付け加えたものと考えられる。例えば、

贾瑞收了镜子，想道：“这道士倒有意思，我何不照一照试试。” (12, 263)

意味は「ためしにひとつ（道士から受け取ったその鏡に自分の姿を）映してみない手はない」

であり、「映して(何かを)ためす」という連動文の意味ではない。＜V－V试试＞で「嘗試」の意を表していると考えてよいであろう。同様の例は《品花宝鑑》(以下《品》と略称)に1例見られる。例えば、

文泽道：“且报一报试试。”(《品》第9回, 第127页)

“试试”を後置するという特徴は、《姻》に1例見られた＜VOV试试＞と共通する(注14)。

2. 二音節動詞

二音節動詞の重畳型は概略以下のようにまとめられる。＜VOV＞型は現れない。“儿”を接辞する例も現れない。

[表4]

V V	84例
V了V	1例
V V O	11例
V－V	1例
V了－V	1例

2. 1. V V

全84例、動詞の種類は55。

——帮衬、表白、持颂、打听、打算、点缀、端详、方便、分辨、分付、分解、改削、改正、和劝、挥霍、见识、经历、看望、可怜、料理、领略、描补、排解、评阅、亲香、热闹、洒落、散谈、商议、赏鉴、哨探、收拾、疏散、搜检、算计、随喜、谈会、探望、团圆、嬉和、喜欢、现弄、歇息、辛苦、叙谈、游玩、照管、斟酌、整理、整治、知道、嘱咐、走动

用例の多さと、動詞のバリエーションの豊富さは他の資料と大きく異なる点である。用例は会話文中での使用が大部分を占める(70例)。例えば、

帮衬贾芸道：“有件事求舅舅帮衬帮衬。…”(24, 537)

贾珍、尤氏二人…，因笑道：“…，看着众儿孙热闹热闹，是这个意思。…”(11, 238)

贾珍见凤姐允了，又陪笑道：“…，横竖要求大妹妹辛苦辛苦。…”(13, 282)

贾母笑道：“…，今夜不要团圆团圆，如何为我耽搁了!”(76, 1867)

副詞を伴う例は多くない。例えば、

仙姑无奈，说：“也罢，就在此司内略随喜随喜罢了。”(5, 104)

探春没听完，…，一面问道：“…，彻底来翻腾一阵，生怕人不知道，故意的表白表白。

…。”(55, 1292)

次日一早起来，也无心梳洗，胡乱整理整理，便出来瞧母亲。(34, 785)

“把”字句に現れる例はこの1例のみ。例えば、

凤姐儿…，说道：“…。你也该将一应的后事用的东西料理料理，冲一冲也好。”(11, 252)

二音節動詞の重疊型と並行する<A A B B>型には二つのタイプが見られる。用例のすべてを網羅しているわけではないが、以下に概観してみることにする。

(1) “A A”と“B B”が連合するケース。当然、“A B”という語は存在しない。意味は「Aしたり、Bしたりする」。例えば、

滴滴点点 (62, 1477)

念念写写 (70, 1707)

说说笑笑 (8, 186) (11, 249) (17, 386) (21, 477) (60, 1413) (76, 1866) (76, 1866)

脱脱换换 (10, 224)

摇摇落落 (79, 1970)

(2) 語構成が同義複合、あるいは類義複合の関係にある“A B”という一語が展開するケース。「動作、行為」より、むしろ「様態」表現として用いられることが多い。例えば、

藏藏躲躲 (46, 1069)

重重叠叠 (56, 1307)

抽抽咽咽 (20, 450) (34, 770) (55, 1292)

唧唧啾啾 (62, 1469)

接接连连 (70, 1700)

哭哭泣泣 (80, 2002)

拉拉扯扯 (30, 690) (31, 717) (74, 1802) (77, 1900) (77, 1901) (80, 1987)

来来往往 (27, 609)

唠唠叨叨 (20, 439)

趑趑趑趑 (24, 552)

飘飘荡荡 (23, 523)

飘飘摇摇 (70, 1718)

泼泼撒撒 (24, 552)

偷偷摸摸 (73, 1788) (80, 1986)

絮絮叨叨 (65, 1584)

賓語を取る例も見られる。例えば、

凤湘云笑道：“…，谈谈讲讲些仕途经济的学问，也好将来应酬世务， …。”(32, 739) (注15)

2. 2. V了V

全1例。

——端详

<V了V>型は単音節動詞の用例も少ないが、二音節動詞では更に少なく、例外的といえるほどに稀少である。これまでの調査では《姻》に2例見られるのみであった。例えば、

黛玉…，整理已毕，端详了端详，说道：…。(8, 188)

2.3. VVO

全11例、動詞の種類は11。

——打扫、打听、教道、教寻、开导、拉扯、收拾、疏散、演习、粘补、资助

“打扫”“资助”の例を除いて、他はすべて会話文中での使用。賓語は人称代名詞の例が多く見られる。

(1) 人

1) 代名詞：自家

2) 人称代名詞：你、我们、他、他们、

(2) 物：衣服、

(3) 事：骑射

(4) 身体部位：筋骨

(5) 補文：奶奶、姑娘们赏脸不赏脸

例えば、

打扫打扫衣服 (6, 137)

打听打听奶奶、姑娘们赏脸不赏脸 (45, 1035)

教道教道他 (25, 562)

教寻教寻他们 (28, 633)

开导开导他 (11, 242)

拉扯拉扯我们 (55, 1290)

不收拾收拾你 (24, 534)

何必不疏散疏散筋骨 (75, 1856)

演习演习骑射 (26, 593)

粘补粘补自家 (56, 1319)

资助资助他 (10, 219)

2.4. V—V

全1例。

——疏散

例えば、

贾母原没有大病，…，又吃了一剂，疏散一疏散，至晚也就好了。(42, 979)

《品》には“舒服”の例が1例見られる。例えば、

潘三道：“…，我整整儿想了半年了，你不叫我舒服一舒服。…”（《品》19, 278）

2.5. V了—V

全1例。

——打谅

例えば、

凤姐打谅了一打谅，见他生的干净俏丽，说话知趣，因说道：…。(27, 613)

通時的に見て用例の少ないタイプであり、清代の資料を中心に現れる。《姻》に1例見られただけであったが、同様の例は《品》にも見られる。例えば、

聘才见这大模厮样的架子，心里筹画了一筹画，便站起来道：…。(《品》2, 23)

3. おわりに

前稿のデータに今回の調査結果、並びに《品》のデータを加えて一覧表にしてみる。《脂》は「庚辰本」を表す。

[表5]

		《照》	《儒》	《増》	《脂》	《品》
単 音 節	V V	5	167	12	309	210
	V V 儿	0	0	0	3	0
	V 了 V	0	0	1	10	8
	V V O	0	69	8	147	210
	V 了 V O	0	0	1	4	22
	V — V	32	53	0	127	97
	V — V 儿	0	0	0	8	0
	V 了 — V	3	12	1	118	202
	V — V O	26	32	1	22	24
	V 了 — V O	0	3	0	7	10
	V O V	0	0	0	0	1
	V O V 儿	0	0	0	1	0
	V O — V	0	13	0	11	16
	V O — V 儿	0	0	0	2	0
	V 了 O — V	0	0	0	0	4
	V V 看	0	0	0	1	4
二 音 節	V — V 试试	0	0	0	1	1
	试 V — V	0	0	0	0	2
	計	63	349	24	771	883
	V V	0	16	3	84	44
二 音 節	V 了 V	0	0	0	1	0
	V V O	2	2	0	11	10
	V — V	0	2	0	1	1
	V 了 — V	0	0	0	1	1
	V — V O	0	1	0	0	0
	V O — V	1	0	0	0	0
	計	3	21	3	98	56

《品》の特徴は、次の二点。

(1) 単音節動詞の用例は「庚辰本」より多い。

(2) “儿”接辞の例が見られない。

「庚辰本」における問題点は“了”をめぐって以下の三点に整理することができる。

(1) “了”を接辞した場合、動詞重畳型の表す意味は「已然」であることが予想されるが、なぜ「未然」の文脈になじまないのか。

(2) <V(了)ーV>と対比して意味の共通性を取り上げられることの多い<V+(了)+数量補語>における“了”の機能。「已然」だけではなく「未然」の文脈には用いられないのか。

《現代漢語八百詞(増訂本)》に、この点は明記されていない(注16)。

(3) 単音節動詞の場合、“了”を伴う<V了V>は頻度が低いのに対して、<V了ーV>は必ずしもそうではないのはなぜなのか。

広く通時的な記述を進めながら、このような問題を掘り下げ、現代語における問題の解決に寄与できればと考える。

(2004. 8. 29)

注

(1) 光緒年間(1849年刊)の資料である《品花宝鑑》にも“儿”接辞の例は見られない。

(2) 《兒女英雄傳》に<VV儿><VーV儿>の見えることが陳2000、藤田2002、汪2002などに報告されているところから、清末光緒年間の文学作品においては用例のあることがわかる。口語資料として、清末時期の会話テキストでの調査が今後必要となってくるであろう。

現代北京方言では、ある一定範囲の語に<VV儿>が見られると李珊2003(p.23)は指摘する。例えば、

等等儿、玩玩儿、坐坐儿、蹲蹲儿、躺躺儿、躲躲儿

牛島徳次1995(p.77)は“等等”について「単音節の動詞の重ね型に“儿”を加えると、好意的な感情を表す。」と述べ、“儿”化が北京方言であることを示している。しかし、“儿”化の生産性は今日では極めて低下し、ほぼ「化石化」していることは李珊2003の指摘を待つまでもなく、《現代北京口語詞典》(p.86)に“等等儿”という項目が立てられていることから明らかであろう。例えば、

【等等儿】稍等片刻。如：～，我马上就弄完。

(3) 伊藤漱平訳『紅樓夢』(平凡社ライブラリー 1997年刊)第6巻(P.210)に拠る。

(4) p.656。

(5) p.2380。

(6) p.1469。

(7) 鄭慶山校《脂本彙校石頭記》p.592は“回头看看了”とするが、校記にはこれに関する記

述が無い。

- (8) 系統を異にするレニングラード本第67回に、この例は現れない。
- (9) p.283。「己卯本」はこの箇所を欠くため、どの段階で“一”が脱落したのか不明である。レニングラード本、程甲本、程乙本など諸本は“理我理儿”とする。鄭慶山校《脂本彙校石頭記》はこれと対照的に“理我一理儿”とする (p.251)。
- (10) p.307。この部分は程甲本の記述も同様。
- (11) 錢乃榮1997「2.動詞重疊帶補語」(p.57) 参照。
- (12) 《紅樓夢大辞典》(p.63) に拠る。同書は《集韻》から“洗馬也”、また《字彙》から“洗物也”の釈義を引き、“瀾”と同音の別体字とする。
- (13) 小稿の調査では《脂》以外には《姻》、《儒林外史》、《品》などに見られることが分かっている。宮田1970には《紅樓夢》以外に《官場現形記》、《魯迅小説集》の例も挙げられている (p.37)。
- (14) 拙稿2003 (p.216) 参照。
- (15) 《漢語大詞典》第11巻に“談讲”が語彙項目に収められているところから、このグループに分類した。
- (16) p.351参照。＜V+了+数量補語＞が“不独立成句”の場合について言及するが、例がいずれも「已然」のもの。「假定」の文脈における「未然」の例は挙げられておらず、また誤用としての例も示されていない。

参考文献

- 宮田一郎 1970 「「動詞かさね式」と賓語」『大阪市立大学文学部紀要人文研究』第21巻第4分冊。
- 1971 「《～看》について」『大阪市立大学文学部紀要人文研究』第22巻第11分冊。
- 大島吉郎 1999 「動詞重疊型に関する通時的研究(一)——《水滸傳》を中心に」『大東文化大学紀要』第37号。
- 2000 「動詞重疊型に関する通時的研究(二)——《元曲選》を中心に」『大東文化大学紀要』第38号。
- 2001 「動詞重疊型に関する通時的研究(三)——《西遊記》を中心に」『大東文化大学紀要』第39号。
- 2002 「動詞重疊型に関する通時的研究(四)——《金瓶梅詞話》を中心に」『大東文化大学紀要』第40号。
- 2003 「動詞重疊型に関する通時的研究(五)——《醒世姻縁傳》を中心に」『大東文化大学紀要』第41号。
- 2004 「動詞重疊型に関する通時的研究(六)——《儒林外史》を中心に」『大東文化大

学紀要』第42号。

牛島徳次 1995 『老舍「駱駝祥子」注釈』同学社1995年刊。

管锡华 1993 《红楼梦》重叠动词的考察,《古汉语研究》1993年第1期(总第18期)。

杨 平 2003 动词重叠式的基本意义,《语言教学与研究》2003年第5期。

张 称 2000 现代汉语“V—V”式和“VV”式的来源,《语言研究与教学》2000年第4期。

陈昌来 2000 《儿女英雄传》动词重叠的考察,《汉语学报》2000年第2期。

藤田益子 2002 《儿女英雄传》中的动词重叠形式,《纪念王力先生百年诞辰学术论文选》商务印书馆2002年刊所收。

汪大昌 2002 《儿女英雄传》中“儿”尾的使用情况及相关问题,《语言》2002年第3卷。

李 珊 2003 《动词重叠式研究》,语文出版社2003年刊。

钱乃荣 1997 《上海话语法》,上海人民出版社1997年刊。

《脂砚斋重评石头记汇校》(全5册)第4册,冯其庸主编,文化艺术出版社1988年刊。

《红楼梦大辞典》冯其庸·李希凡主编,文化艺术出版社1990年刊。

《现代汉语八百词(增订本)》吕叔湘主编,商务印书馆1999年刊。

《现代北京口语词典》陈刚·宋孝才·张秀珍编,语文出版社1997年刊。

引用書目

《脂砚斋重评石头记》(全2册),香港中华书局1977年刊。

《脂本汇校石头记》(全3册),郑庆山校,作家出版社2003年刊。

《脂砚斋重评石头记甲戌校本》,邓遂夫校订,作家出版社2000年刊。

《脂砚斋重评石头记己卯本》(全2册),上海古籍出版社1981年刊。

《苏联列宁格勒藏抄本石头记》(全6册),中华书局1986年刊。

《程甲本红楼梦》(全6册),书目文献出版社1992年刊。

《程乙本新镌全部繡像紅樓樓夢》(全6册)、台湾廣文書局1977年刊。

《红楼梦》(全3册),人民文学出版社1957年初版,1964年第3版,1979年第2次印刷。

《品花宝鉴》(全2册),尚达翔校点,上海古籍出版社1990年刊。